

科目名	外国史Ⅰ Foreign History I						
科目担当者	中堀 博司 NAKAHORI Hiroshi						
単位数	2	配当年次	2 年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科〔専門教育科目 自由科目〕 他学部他学科履修○					ディプロマポリシーとの関連	(4)(6)
授業の概要	ヨーロッパは、日本とは反対側のユーラシア大陸の西端に、数多くの小さな国々から構成された地域である。15 世紀の大航海時代から、この地域の国々が、アジアやアメリカ、あるいはアフリカに進出し、交流や衝突を繰り返しながら、現代世界は成立した。それでは、ヨーロッパはどのように成立し、「世界の一体化」はどのように進んでいったのだろうか。本授業では、古代および中世の 2 つの時期についてヨーロッパ世界の形成とグローバルな交渉過程を概観する。その際、比較の観点を重視しつつ、世界史上の重要な論点に目を向け、学生との双方向的な対話の中で学修を行う。グローバル化する世界をその歴史の深みから理解することを主眼とする。						
授業の到達目標	①ヨーロッパの大きな歴史的流れを理解した上で、固有の歴史的背景・文化をもつヨーロッパ諸国の知識を身につけ、「世界の一体化」の諸相を理解する。 ②ヨーロッパの歴史を通して、歴史的思考や異文化理解の能力を身につけ、説明できる。 ③わが国の外の世界に対する幅広い関心を常に持つ。 ④日本の歴史、世界の地理、現代の政治経済、海外観光事情等に関する知識を並行して身につける。						
授業計画・内容	1	オリエンテーション					
	2	古代史の論点（0）テーマ設定					
	3	古代史の基礎知識					
	4	古代史の論点（1）「ローマ化」論争（学生報告 1・2）					
	5	古代史の論点（2）五賢帝時代と「3 世紀の危機」（学生報告 3・4）					
	6	古代史の論点（3）キリスト教の拡大（学生報告 5・6）					
	7	古代史の論点（4）「古代末期」論争（学生報告 7・8）					
	8	古代史の論点（5）ビザンツ帝国史の時代区分（学生報告 9・10）					
	9	中世史の論点（0）テーマ設定					
	10	中世史の基礎知識					
	11	中世史の論点（1）カロリング・ルネサンス（学生報告 1・2）					
	12	中世史の論点（2）ピレンヌ・テーゼ（学生報告 3・4）					
	13	中世史の論点（3）12 世紀ルネサンス（学生報告 5・6）					
	14	中世史の論点（4）十字軍（学生報告 7・8）					
	15	中世史の論点（5）イタリア・ルネサンス（学生報告 9・10）					
授業外学修 (事前学修)	毎回必ずテキストの熟読を行う（約 2 時間）。 但し、テキストからテーマを選んで、学生各自が 2 回自分で調べ報告しなければならないので、その際はより集中的に準備し、取り組む必要がある。						
授業外学修 (事後学修)	毎回テキストの復習と最終レポートに向けての準備を行う（約 2 時間）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	発言・リアクションペーパー（各回）					10%	①②③
	ミニレポート（2 回）					30%	①②④
	期末レポート					60%	①②③④
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	金澤周作監修、藤井崇ほか編著『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年（税込 ¥3,520）。						
参考文献	近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社、1999 年。 木村靖二・岸本美緒・小松久男編『詳説世界史研究』山川出版社、2017 年。 服部良久ほか編著『大学で学ぶ西洋史（古代・中世）』ミネルヴァ書房、2006 年。						
その他	受講にあたっては、日々生じている世界における出来事や、歴史・文化一般に対する関心が重要で、日本の歴史、世界の地理、現代の政治経済、海外観光事情等に関する知識をあわせて修得することが必要である。なお、受講者数に応じて、報告テーマの順序や内容を変更する場合がある。						